

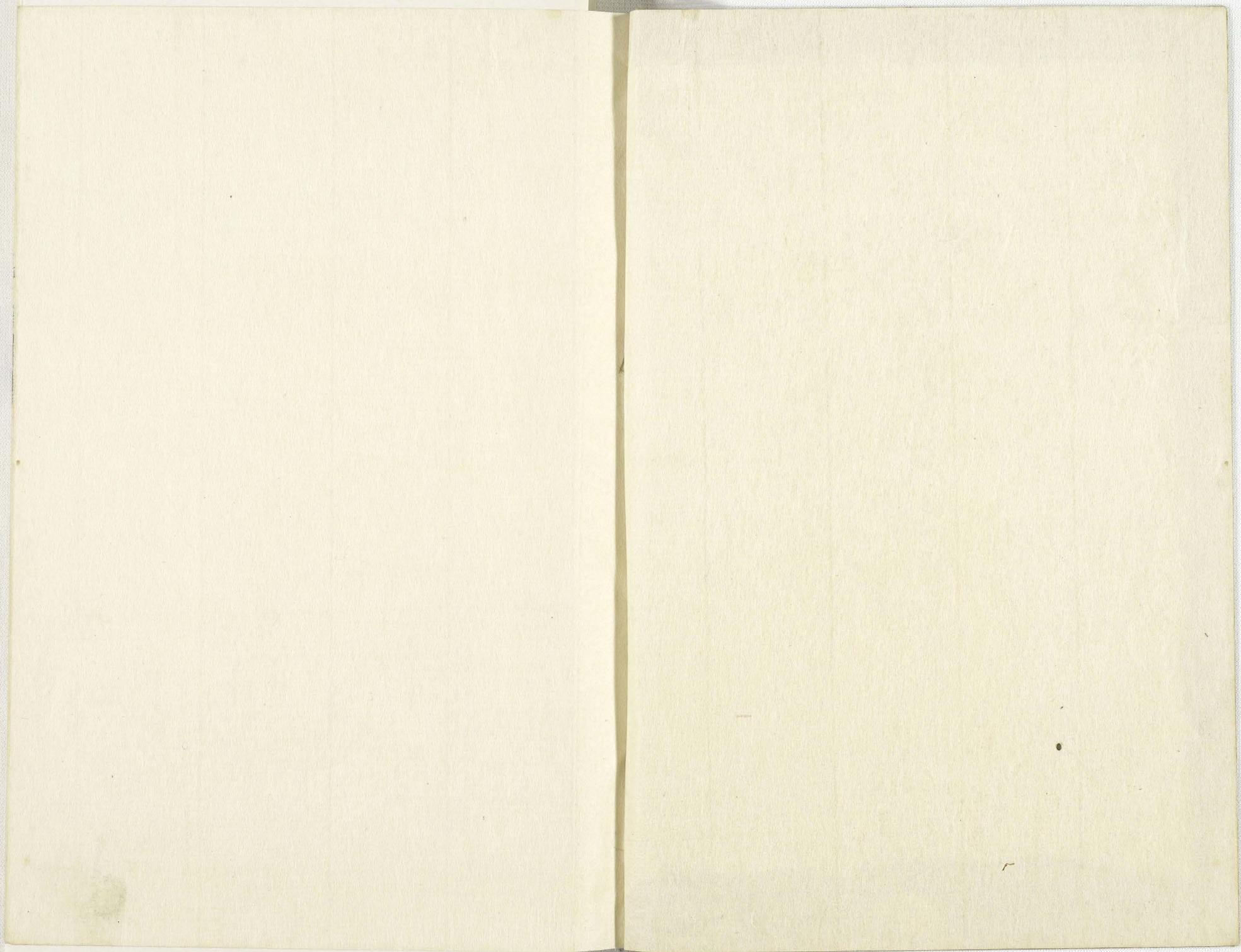
丹鶴叢書

和歌一字抄上



8 9 10^{18m} 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20^{18m} 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30^{18m} 1 2 3 4 5







丹鶴叢書 癸丑帙

從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

和歌一字抄卷之上

東外遙遐遐年長短久舊懷古
北上中下邊頭間
前先半後近遠遠近
遙遐年長短久舊懷古
朝暮晚夕日夜暗
閒靜不閑納冷涼涼寒明
早速遲速納冷涼涼寒明
遲速初始溫霽晴時時
期盛照未晴

一本客以下在
下卷之初

終不殘盡連滋繁落亂淺林隣
獨孤
勤山薰未落逐增隔帶鮮芳
野村底芳馥逐添籠映綠
過路句散句流送添副
田家客處不流漸隱
招來隨紅綠籠寫隱
岸飛稀掩埋
滿開圓繞
白薄希
岸飛稀掩埋
滿開圓繞
白薄希

一字抄
誰來

臨宿聞興移凌談不辨
寄猶尚
各依忘契踏拂翫不聞
勤不改
不依不忘催結不掃
不異厭意及同總未飽
似自交告碎勝不擇無擇
如未遍比伴冒戴驚見
不知

不如 每 皆 不足 多 少 有 在
無 一 不一 不定 為作 言志 即事
證哥

一字抄

東

春来從東

後拾

師賢胡臣

後拾春上
うつま政ひあくまをせきひもあらゆど、いとうちの城てまつと

同題

大江毛房卿

ひよはきよしりてくわくす、衣の圍をひくたまふ

北

風來從小

行宗卿

かくまは神ふほよもおよりかくらの風をまよひある

上

水上落花

能因

桜うちみれおもはせましむるのちうみくアキラ

同題 源俊頼朝臣

花の下の水の底より新よみのものせよ水音室
家集 千載春下

水上丸良運打空

清成法橋

えもや舟渡よとほよひゆのわよわるやあ

海上堂裏 宅家

えりほよ入めいとばゆわのひがれり

金葉秋 あこ葉ま金

藤原伊家

竹ちる

よまとかくく鴨くわおのま羽ケイきりよきり

水上秋月 拾 文時卿

一字抄

拾遺雜上水の最も全
みふらご小月のあつじ哉まうきは我をもとやうひよば

み上冬月 源信宗別臣

えのよみあきふやく月新々じすみゆのあうとく

池上花 顯季卿

岸らうく角さくねれはあつやけのがなうむ

池上月 良運法師

月づのかくすまふはみかづくふるくとくひのう

海上落葉 経信卿

玉簾波あもまきくきよ次と全のちすまくまくすまく

海上夜月 大江赤言

おうとう、せんじん月の入るじふとゆきて
橋上荷衣

顧李卿

うつしもあらはにやくあえよどきの橋よしの夜宿

橋上初雪 金

前齋院尾張

金冬

さくまのたらわづかすゆふかきれのくいふわらふ雪

松上雪

友原国り

後於冬

あらゆれむねづかよまきひくいはなゆめくわらふ

中

雨中寫 金

後村胡臣

金春

春のさうとさむれようひのきがきれぬゆよを今

一字抄

雨中紅梅

為義胡臣

さくまのいもむだきてみのむとけよるうめくわ

雨中莎草

無名

さくまのさくまのうめくわふみくよもせよくわ

雨中花

安全法

安法師集

うつしもふれ下小一束よしんたほくわよ衣よむる

千春下

雨中落水 打突

長家卿

春

春のよらふれぞからくうそくのよしよれぞすれ

雨中落水 金

顧仲文

金春

うつしもふれぞからくうそくのよしよれぞすれ

雨中瞿麦

俊頼胡臣

いのちのまどり代ふるはるかにあらわすよしのうふ
家

雨中郭子

経佐

いのちのまどりあらわすよしのうふ
家

新千載賀

雨中早苗

圓前左政大臣

いのちのまどりあらわすよしのうふ
家

新

雨中女郎

後村胡臣

いのちのまどりあらわすよしのうふ
家

新

雨中望雲

顯季卿

いのちのまどりあらわすよしのうふ
家

一空

雨中落葉

長國胡臣

いのちのまどりあらわすよしのうふ
家

風中生声

壽名

いのちのまどりあらわすよしのうふ
家

雪中子日

俊頼胡臣

いのちのまどりあらわすよしのうふ
家

雪中松树低

低字依無其
篇入中字

定家

いのちのまどりあらわすよしのうふ
家

雪中松竹

同

いのちのまどりあらわすよしのうふ
家

ちやうる葉

桂宣胡

かきのわすらまよひかくさがす雪をも

雪中鷹狩金 道浦

めれもねりはくせんのちとくらみいは
金冬

雪中旅人

徑信

新古今旅
ほそとぞ今

ミ山路とまやもつまの人のかくらへよざまをす

舟中學おき 打開

聖梵經序

むまゆ行のすじくひよひよおやまく

舟中歌おき 後類胡ご

たのむかはなたゆ一叶の、またまくのねのちまく

一字抄

舟中露

西行

家
おととやう半紅いとおひやよまれるくとおひやよられ

舟中月

國房

おとせ月のきのこかくにん天の國房すかなやすまく

心中歌おき

佐敷羽店

ほときいゆうゆがまのとのまよううてよねおやまく

旅中春堂おき

同

家
わきゆ二月のやまとくわくちよおおおおおおお

旅中風鷹おき

後拾

鳥鳴詩

後拾秋上

さくらもわすれなるゆのいのいのいにんまくやく

下

花下旅宿

後頬胡

かさーぬの音のあらむちとわるふをかまひてまゆ除
家やまやまえ

松下風声

奇合

持方

ねくよ松の風のやうなきよりぬ雨す神さきけ

林下宿

行宿

まづれとちくはせの林原をひがみやソヘアツカ

邊頭

水色雪

左原經衡

まくらの春の雪のこしもとくはるはる

一空抄

あまき梅下

平經章胡

まじすへのまごんや白い梅のゆめみのなまれ

水色桜む

師賢胡

まくらの春の雪のこしもとくはるはる

あまき梅下

金 四白前吉

かよひらまくらの雪のこしもとくはるはる

水色雪

泰言

まくらの雪のこしもとくはるはる

あまき梅下

月 打用 安倍佐頬

まくらの雪のこしもとくはるはる

水邊夜草

後敷胡臣

タヌムヘタカツマのミナハシナの糸や葉ナガヒシ
アキモモモ

三官

ツツヨウツツギのミナハシナの糸や葉ナガヒシ

水邊秋花

後敷胡臣

ツツヨウツツギの糸や葉ナガヒシの枝ナガヒシ

水邊芭蕉

金經信

ツツヨウツツギの糸や葉ナガヒシの枝ナガヒシ

水邊芭翁

西行

ツツヨウツツギの糸や葉ナガヒシの枝ナガヒシ

一字切

家

水邊蘆葉

於季卿

ツツヨウツツギの糸や葉ナガヒシの枝ナガヒシ

新古旅

柳賀胡臣

ツツヨウツツギの糸や葉ナガヒシの枝ナガヒシ

金春

水邊藤花

金

經信

ツツヨウツツギの糸や葉ナガヒシの枝ナガヒシ

水邊松

為时羽臣

ツツヨウツツギの糸や葉ナガヒシの枝ナガヒシ

海邊柳

花室左右衛門有仁

ツツヨウツツギの糸や葉ナガヒシの枝ナガヒシ

満室春

信朝

春あらうるまくまくほの津ひあひのよみまく
続於遺春上

海を月

頭仲之

かめみり夜の月お月の夜毎に月の夜は
新古雜上

岸急牡丹

旅仲之

あひやとすくまくまくまくまくまくまく
まくまく

岸を秋花

保順

まくまくのまくまくまくまくまくまくまく
まくまく

跡を枯葉

頭仲卿

まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまく

夫木

山毛桜花

源仲正

せつみはま木山毛桜花の木あれどなむやく
せつ

鳥毛鷺

行宗之

しれくさくせきのまくまくまくまくまく
まくまく

岸の白菊

宣誓律师

おやのこ一枝をひのこいがゆのあひみよられ
せ

間

嘉間那花

藤原行家胡

秋のまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまく

兩間之

京極忠政大臣

風すらめにさざなふる又まのよもよも

松間花 金

華園左大臣

金春

春ふるひのむらよつれ風すらめ

同座 金

内大臣

實能公 公實男

金春

はまはまふくはまく風すらめ

松間紅葉

顯浦口

家

すまのねのたまゆらのまやかしの風すらめ

同題

師光 裹

外

外

雪外郎

行盛胡

金春

まつりとむかよてはまく風すらめ

師外草

陰源法

金春

まつりとむかよてはまく風すらめ

聖の女郎

顯まで

金春

まつりとむかよてはまく風すらめ

聖外郎

師財

金春

まつりとむかよてはまく風すらめ

月夜詩

經傳

新後林春下
家

月あ秋ふ

菅原浦船

うみかの月のまづるをやせふとてはるす
月あ荷葉

月あ荷葉

島後御制

もくちのぬくまつたおゆめやくの新

月あ白菊

大山と賢、胡臣

せきよ月よかくわくとてはるす

月あ達情

後

左原実徳胡臣

いづてかくね秋の月れどいづてのえく

月あ松風

裏

定家

一子抄

家
えり雪もまたる月影よ柳もまたるゆみのいへ

月あがる

大山と部

金夏
ほくしの雪もまたる月のまづるをやくわくする

月あはす

り葉

月あすけすくわくわくのまづるをやくわくする

先

柳先若緑

二條大納言實

あらわくわくわくのまづるをやくわくのまづるをやくわくのまづるをやくわくのまづるを

秋花先秋

昇白

わくはくのまづるをやくわくのまづるをやくわくのまづるをやくわくのまづるをやくわくのまづるを

半

山花半綻

陰涼

秋の紅葉もまだ残るが、月はすこし薄らぐ

紅葉半落
初聞

後長中將

秋の紅葉もまだ残るが、月はすこし薄らぐ

池水半冰
裏

寒家

秋の紅葉もまだ残るが、月はすこし薄らぐ

同題
裏

後京極構政

秋の紅葉もまだ残るが、月はすこし薄らぐ

後

一言抄

雨後殘花

慶範法師

秋の紅葉もまだ残るが、月はすこし薄らぐ

雨は跡草
金

俊新胡

秋の紅葉もまだ残るが、月はすこし薄らぐ

雨は前草
詞

俊新胡

秋の紅葉もまだ残るが、月はすこし薄らぐ

雨は月明
金

良運

秋の紅葉もまだ残るが、月はすこし薄らぐ

雨後山冰

友原基俊

秋の紅葉もまだ残るが、月はすこし薄らぐ

夏はあら

内侍

おひのゆきよひくわおひかくわくわくほがれ

回郎

俊忠

たかづかむけよせのめくわくわくわくわくわく

おは月日

良

津守国基

あすしくちよひくわくわくわくわくわくわく

西後月

裏

喜家

かよくわいむけよくわくわくわくわくわくわく

近

山近聞郭公

藤原盛房

一字脚

ほくまくひよくまくまくまくまくまくまくまく

山近聞廉聲

橋為義朝臣

じよくはよくわくわくわくわくわくわくわくわく

叢を吹虫

源順

けむれよくせせよのけよなまのくよくせせよの

梅告春近

弘季

雪のよふにきよく梅のよふにあつやかく

林近聞学齋

喜名

えくわのよふによひ雪のよふにあつやかく

近對紅葉

行宗卿

あかねの枝をあがめかう

遠

遠山樓

森原清家

後村春上
の歌はやくのゆきよ

をゆむ

後賴朝

神のよきほのゆきよ

を山ふ葉

鴎翁

神のよきほのゆきよ

を山ふ葉

鴎翁

神のよきほのゆきよ

を山ふ葉

鴎翁

梅喬きま 上科 橋則長

まとうてのゆきよ

さく山院房 裏 家

ほのきよかゆのゆきよ

遠弓矢 小弁

ひざくらゆきよ

さく山院房 裏 家

かづきよかゆのゆきよ

遠弓矢

信物別日

かづきよかゆのゆきよ

梅ふとま

信軒加茂

新言春上
心あへ向まへそひに梅のふたさう匂ひすかへせ

と聞あら

顔よて

家
山氣のふくさとははるかづまく称とくうきゆう

と只村家

近房

まめのあいと落の葉うれい小まじますやすやまし

持衣おとを

近房

こうもくちむかと人をほのかふまじいふまじいやま

月すなは

信軒胡長

かくまくわな八重すまざれくわやくわのおじうあく

一三九

家

雪中を晴

信軒胡長

後松春上

雪のまつ

近房

後松春上

雪のまつ

近房

全春上

雪のまつ

成

全春上

雪のまつ

誰家

全春上

雪のまつ

信綱胡長

全春上

雪のまつ

信綱胡長

全春上

雪のまつ

新化詩割

全春上

雪のまつ

新化詩割

遠近

をと郊外

太政大臣 実り

郊外をとすの處を望むればやや飛也おなほ

きと蘋葉

三家

草むしりうつむかひるぬす一葉すすみをはく

遙遐年

遙見花 金

匡房卿

金春

後

遙見山 望

同

もつせ山 家よひの處をとひ天の門をくぐりてはく
後松春上 望淡林

一字抄

遙聞郭 う上科 道渦

焼松夏

金
やまふ

同

浦平胡臣

ほらの浦平胡臣はとくにこゝにゐるわざひ

同

長鶴

きのとものあすはるはとくにこゝにゐるわざひ

同

平祐舉 越中守

ほのとものあすはるはとくにこゝにゐるわざひ

同

浦親之

うとものあすはるはとくにこゝにゐるわざひ

同

嘉言

後於夏

以上詩堂三十誦詩合

遙思月

顯季

かみはなまの月代はたのへちあわてあはれには
き見行か

三條大納言

あまたるきみのむらじとれともすの夜涼

仁和寺左府

細く小葉すふみやれめ往よしゆる山木の下
花枝逃年金

放浦

一字抄

万葉集
金春
萬葉集
家
枝
頭
松枝逃年

長

後

後於夏

藤原範永胡居

六年

秋

水のよせ

家

冬夜長

家經胡居

秋

秋の暮

老ぬ人

雪中宿

宿房

あむかふうつじきせせめくらむらかくらむら

秋夜長

後頬羽

秋の夜の長の如きはアカハラの如きの如きとされ
家

短

師子緑紙

新院御製

トキシガヨシヒツヘシタガニシロシモ小叶あくも

亥夜絃

後軒胡弓

支の夜の如きはアカハラの如きの如きとされ
家

久

梅花久喜

匡房

九重やアカハラの如きの如きの如きの如きの如き

同座

顯仲入道

梅枝小風とアカハラの如きの如きの如きの如き

庭の久喜

忠教

アカハラの如きの如きの如きの如きの如きの如き

詞難上

千賀

左也喜人

皇嘉門院
音后後始會

師也

アカハラの如きの如きの如きの如きの如きの如き

詞難上

春

岸菊久向

善嚴為政

アカハラの如きの如きの如きの如きの如きの如き

鶴丸久友

仁和也方

アカハラの如きの如きの如きの如きの如きの如き

舊懷舊

古

舊年梅花

明快俊翁

さのむらの梅の香はうかがふるはまわすはまわす
十冬

月思古橋 金

三官

金秋

さのむらの梅の香はうかがふるはまわすはまわす

對月憶古人

玄々集向月
思友トアリ

中原長國

詞雜上

後拾雜一

對月懷舊 後

涼師光

前歲人之時
詠之

月思古橋のこはすまされ哉とあくよどむや
年々

年に見花 太政大臣 実川

金恋下

時會憲 金

頭國加臣

わづ處をもつてけふすらまづ終ふもおもふはれ

時 同座

顯仲入道

めうじゆうかねくまくはなはなはなはなはなはなはな

同

殿 下

あひてよしむらむらむらむらむらむらむらむら

曉

曉夢掌

雅兼卿

金春

曉鶯花

顯季父

家
暮雲孤月照松林

同

贈友大士

半夏
秋雨蕭蕭夜雪明月照

曉色初晴

後賴祖

家
秋色也知秋色在
山家曉掌

曉鶯

歌季父

家
曉鶯小禽

歌季父

一字抄

曉閑掌

源定佐

金夏

わくわくやうしのひあられはるすよけたり

家

山家曉掌

後賴祖

あひのやのこまかくふくらむひとをくわしてすゆうめ

裏
晓寒

水度萬合

秀内

こゝり風もほむくへのかいふかへとおひづり

曉郎

楊資成

後
ういのゆくよもよがすまへひあてあひとつねとさざ

曉郎

西川

燒後撰冬

けぬうと你さきの床すきからも見ゆるおおきなまくら

行路曉月 金

家
水縁便

金秋
もうすみにむとそりよ至りの月のとおうらはる

暮宿晓雪

永亂

ひそくがまのとせきかく開け雪すこに

霜中曉思

後村羽白

いのねとおちぬふるひのゆきゆきふと

千旅

朝の月

乾永胡臣

菊石曉苔

行宗卿

せんよとととととととととととととととと

一字抄

後後撰夏

おも晴と

月

天の下、残すあまくおほきくはりて、残すてはなま

朝

胡見ふ

匡房卿

山根

山家雪胡

経緯に

羽戸あさそみよまきりき行ひのまのかれすすむむむ

雪胡胞を

後村羽白

あそや、もとゆめら、成らぬすあくわくゆのすせりしむ

裏立

胡花

宇家

さうきのゆめにいはせんと、初やむののまの西行

五月雨那

家

玉山もあらわのいやせんと、あくまく

暮晚

五月雨那

国房

続於春下
タマレモおぼえくやせんと、花のゆくよ

五月雨那

顔季次

ゆくよ入るのよせんと、花のゆくよ

五月雨那

信新胡月

三共の酒すけすけすけすけすけすけすけすけすけ

一字抄

靈鵲勝薰

秋季次

あらく花うの向ふあみれせよ、あらうれきう

水風既涼金

信新胡月

かくすとくのうそよ、すて涼り秋の季

船中既涼

信新胡月

舟中既涼、水すかひたすす涼、かくせ舟

山家晚至

國房

じうの船ののひたすす涼、かくせ舟

晚見跡端

信仲正女

入だらぬるのとくとくとくとくとくとくとくとく

金春穀政大臣家二河

海上晚望

國房

まぐれあはれせうてかのうとちよひのゆきのゆきの舟

夕對印

資仲

月すみかねの月あやうと印もよやくあらわる

夕紅葉

定家

まくらやのくさむがおのれのうたがよむ

苦山空

円

まくらゆめをなふやまくらのゆめをなふやまくら

苦山空葉裏

円

まくらのゆめをなふやまくらのゆめをなふやまくら

一字抄

暮山雪

光復胡辰

しののくほせよ木の里も行こよきゆうに梅のうら雪

苦空り泉

徑信口

夕日やあらす原すまくともあれうよ寂くとも

る花日苦

國房

月すみかねやあらす原すまくともあれはよもよもは

不下見苦

行感

ほまくらうまくもあらす原すまくともあれはよもよもは

苦空日苦

仲實

まくらゆめをなふやまくらのゆめをなふやまくら

杜陵日暮

蘇原附居

火食ひはまかねてむかわくひよしめく
流す林す 有原源資

山のやまとひもむきのつゝく林とがむく

山家深喜 がる浅草胎

山のやまとひもむきのつゝく林とがむく

山家深喜 家庭胡臣

山のやまとひもむきのつゝく林とがむく

山家深喜 楠宗職

山のやまとひもむきのつゝく林とがむく

一章抄

家

後頼胡臣

地有す此にすがましにまよひの城

夜

跡馬夜嘶

世名

竹をもあくのゆくのゆく約よんにいはくあせゆ

蓋被相思格

平急感

手筋と竹じよとがまくわかむのひよ

夜思山雪

冰胤傳

山のやまとひもむきのつゝくのちのゆく

春夜尋雪

為義胡臣

是處の風は秋の風に似て秋の風に似て

暗

晴夜弓橋

山口重如

新吉冬
弓橋の橋もあらうがまくまくの
弓橋行歌

兼治

弓橋晴

無名

葉底月明
友國房

明

雨後月明

良運

一字抄

新吉冬
弓橋の橋もあらうがまくまくの
弓橋行歌

霄 晴

漢霧月明

俊頼羽臣

家
弓橋の橋もあらうがまくまくの
弓橋行歌

未晴

河霧未晴

閑庭藏人所寄合年事可尋

弓橋の橋もあらうがまくまくの
弓橋行歌

幽

谷水音出

頬家

アモカヒタニシマツの下かん、アムカヒタニシマツヒカ

拂衣出

拂衣出

杜風

閑静

閑庭拂花

詠之
金葉於朱雀院

經信之

キムクスミシマツゼハ梅乞シヤ春の風すらモキ

新古難上
黒鹿有明月

伴好丸彌

生の月はうみがひきれく月のかのきよま

雨中閑話

孤亭で

一宇抄

家
シムシナシモハリシタリの空のすゝして

山館里古

平原はしづ

ほりの木の下のすすむがいの庵よひづる

月冥牛友

拂乞通

アリアリヤシモヘの氣もさへ日

寒夜冬日裏

西リ

シテヤシモの木の下にひて月をかこむ

閑中歌

永亂

アシルシハセシモシモハシモハシモ

黑見月金

信執胡月

金秋
月のあらやまはすすむかのちあはれ月

山家を閑 同

家
月のあらやまはすすむかのちあはれ月

閑静るよ 同

金春
月のあらやまはすすむかのちあはれ月

閑静るよ 未經方飯

月のあらやまはすすむかのちあはれ月

月のあらやまはすすむかのちあはれ月

仁和寺府

花室たぢ

閑
雅
惟平

一空抄

月のあらやまはすすむかのちあはれ月

不閑

花門不閑 あら

月のあらやまはすすむかのちあはれ月

涼 冷納涼

月のあらやまはすすむかのちあはれ月

顎仲

月のあらやまはすすむかのちあはれ月

月夜自冷 後賴胡

月のあらやまはすすむかのちあはれ月

月のあらやまはすすむかのちあはれ月

円

新流古夏

扇を納涼

同

樹下がさのまのひあくわゆ

扇を納涼

家経

詠夏

風を門へまかのまかるひよし

同

詠新胡月

詠家

せきに涼ひよし

水風知涼

川宮

詠花

花の風の匂のうきよまじり枝も香ぐる

水風既涼

信教初居

金夏
かさのまのひあくわゆ

詠寒

山寒花遙

頭まで

詠家

けの春をまたやすて雪まくらやうにほむ

後於夏

家を入夜

師良

詠花

さくはな井の水の匂のうきよじみる神も

詠寒

枝上定成

枝をす月のひあくわゆ

詠水風既涼

水風既涼

詠水風既涼

水風既涼

野徑寒草

信頼胡臣

月夜宿家
古都よりかのうをすりわづむよまおうみ

月夜宿家

新元詩割

女郎月のいづなはわづむわづむわづむれ村や月

温

泉温草色春

安達師

月夜あらつめくさくわづむけのまにまぢりすまむ

照

月照梅花

信頼胡臣

月夜うきがねくわづむ月のまつめくわづむ

一字抄

月夜月光

閑白

月夜のいづなをくわづむ月のまつめをくわづむ

月夜紅葉

顕季

月夜のいづなをくわづむ月のまつめをくわづむ

月夜菊花

同

月夜のいづなをくわづむ月のまつめをくわづむ

月夜紅代金

経信

月夜のいづなをくわづむ月のまつめをくわづむ

月夜旅宿

弘季仰

月夜のいづなをくわづむ月のまつめをくわづむ

家

月思水

裏書以葦用氷例

経修卿

ともへまよみあひの音あへ
芦の門の口よりはせて

月思同家

新化清製

月思同家
詞
新吉雜上

月思七宝

後耕胡月

月思七宝
家
ほのくのをまめくへむ月思七宝とくまくまくまく

漏

月氣漏屋

河原院
寺合

無名

月氣漏屋
家
あらうてどこのすふもせやく月氣漏屋あらうい

早速

一字抄

新月夜

色房

鏡後松夏

あまのういのまくらのあがまのむかまくらの時まく

曉氣同原

歌季末

家

杜風やをまくらのあがまてたす序へくならむりき

同家早春

伊通

金秋

あまくさのあがまの宵すへ行すつまく杜風やをまく

遲

山家之花至

歌季末

よし野よしのよしのよしのよしのよしのよしのよしのよ

涼山櫻至

花イ

家

家
トハヤマシテのあはれをもつてまづくふ

山樓運用

頼家

かすみ春のふるふるせんじゆわざやせんづれ

同座

範承

一本のいせんじゆわざやせんづれ

連速

花有連速

庄房

前讃岐守兼房イ

同
おな

弓資

さくわがまめに接うるるのやうにはも

期

織女期秋

清原元浦

たぶらかすてかの門をくぐりよしと

初
始

初用鳥

三條大納ミツジヨウノミコト

公實

金春

ひすや梅の木桜の葉のやうにあつらへうらむ

同座

雪月火

今とてこの花の下り桜よしのうのやうに

初用鳥

俊朴加スンブカ

家

ほんのうのきはなつまくはれやけ

少叶初也

庄房

絶波のあらわさきも葉はるひむかわす

北水初半

紀伊人道

きよよやれはるはるひて行ふとあまうす

円庄

隆賢

うひこわやはよもつむまくおもゆらす

盛

逐年花盛

顯浦卿

まがつまやゑのとよもよ

海威待庵

白川院

一字抄

後松秋上
かひあらひにまつたれそめにまつたれ
かひあらひにまつたれそめにまつたれ

終

終日菊花

金輔

かひすきく様をまかれてからひよみくひくよ

終日墨菊

行宗

かひすきく墨のく菊のれ月のえのきくまくすきく

終夜待新月

後新胡月

あきぬふてほくよぐれはるやすながるそのく

終夜月

庄房

かひの月よいづ月をあまうと明るくあまくにうけ

家

あ

絶句情狀 後 范永

後松秋下
のよしをとえし花落す秋葉もはれよ

後松秋下
秋葉すめらやのもはれすじと落つれす木のいづれ

絶句すまぢ
秋葉すまぢとてうづかむのゆゑよ

秋葉すまぢとてうづかむのゆゑよ

盡

花下春水 源頼仲

さくらもくさくらもくらむるおはなよのひよそむき

夜月秋水 源頼家

一言抄

後松秋上
我宿す子様の空をくみほきは唐の御のよやせすよ掛世

同後 頼実

全秋上
わや小花とのよがりつゝよすて唐の御のよやせすよ掛世

逐

逐年花感 源頼大同 長實

もやまと花やとれどなくちのうするむせうづは

逐年花感 源頼大同 長實

きのよもよはせよれどもそれもあすけ匂いとぞくわせ

逐年花感 舟庵清穀

さざれすまぢとれすまぢとれすまぢとれすまぢ

千春下常見光

同

二條大納言

ひそむちくまに花あはなむする日もあまうと

逐日草涼

歌家

まよひすきわらびのくよばりのまのみそくまうり

逐夜待詔

同

マテ竹柳くいよみよとよくいほよひくやまうりと

逐夜風涼

後村胡臣

新秋くいよみよとよくいほよひくやまうりと

少逐夜絃

藤孝若

ぬくものむくらある季のせいかくもやまむくく

一三押

秋も逐露年 元浦

ほろもてよしよしよまくよじよめよまくせく

松下逐涼

六季文

千夏
ごくのむかわく松風とまくのほくよくすくよまく

月を逐涼

後村胡臣

新秋古夏
まよひすきわらびのくよばりのまのみそくまうり

樹陰逐涼

川守

葉をよみりてけいの枝叶を涼しき

送

見ゆ送日才

鶴谷通

監物

春こよはるうるとる城を出るよ老よりや

萬送も社

花つむだ大店

落じよあたの教のがまくはづかせちゆうのを

観送山葉

後れ加佐

えきのあけはてよきりほとをこまくゆくとせ

花下送日 裏

家家

木のわきまへたうれしこもがよひかのえ

漸

花渐サ

昇白

日代のこすむら花すがもくちのえよゆふに一月

一字柳

圭子御温 堀川院

中宮哥合

姫名

圭子角ふくわくひはとくよくよくい林の焼タケイ

林葉向紅

匂房

おもむきこのおもむきのあられよもよもよも

湖頃月 裏

定家

物小林のあられかすみひてぞくの月のあくすき

花渐サ

实行ア

ひよしよよよよよふ桜ふもすよよよよよよよよ

同

後れ明月

葉うれはちうわきよさよひよ風のゆよよよ

支那の國源 師時

支那の國源にあらがふもとをひあくにゆす

稀 希

新通稀 二條大納言

新通稀 二條大納言

郭子和稀

陸經

新通稀 郭子和稀行はるきの御名前

希少

頤季

新通稀 郭子和稀行はるきの御名前

花庭家

深經仲

一字抄

新通稀 伊勢太庸

新通稀 伊勢太庸

郭子和稀

行家

新通稀 伊勢太庸

稀通意

後村胡良

新通稀 伊勢太庸

残

残花誰家

後村胡良

新通稀 伊勢太庸

おふ葉風 金

右大臣

金春中納言雅定
ちづくをむかわすめ成すをれいし風うぶ

算 旗 梅 花

後村那臣

家
さむへはまの風のひるめ様とくへせざきくも

山家春 楠

俊綱

名はうあすくわざくまくじまくよ

弓の残み葉 良

四條又下門

風冬
かく一凡
かく風のよきよきもくらじのむかひの風、耶

山家春 楠

國居朝臣

ゆくせがよすかなむちやくわざくまくよ

不殘

林葉風

新元清制裁

林葉風のほの月の風をひかせよやくに

延

見花延齡

頭事卿

家
あむれをうえよんとく

增

雨増野毛

唐資玉母

ひづくをよそよしの春の日暮のすこしある

月増遠 金

花園左大臣

金恋下

見返事ば遠
頬改裏

妹けあたまむかのいとくそ称あられ

新松恋一
行長情速 家

松の枝とねりのうなはせきりてま

松林塔タカニ

行常

送日晴戀

佳那明月

日ゆの月つきの恋こいの恋こいわましわましわましわまし

添

一字抄

院体中和

頭痛マ

まの枝とねりの口くちやをかかすてのひもがらんざれ

回

行常

夕ゆふのよきよかよきよかしぎりの月つきをまかまかまわらひ

月夜源

閑白

まのまのめまめまめまめまめまめまめまめまめまめ

副

瞿麥副植

信賴胡キニイ

かのむしのむかのむかのむかのむかのむかのむかのむか

夾

郊行史跡

新光詩集

いはかのふくまくよがめにほんと小のうき

瞿麦支水

源仲五

立科の下りかすわくわくアハク後がまく

廻繞

春駒廻澤

源仲五

えいとくはのとくとくれけ河もれなほくまの弱

印花経善

二條大翁言

じがたかのうさかをとまくひやうかのうさか

秋花廻水

源綱

池底草がすやあす年忌の涙を落したるか
内 家基

秋の野草うせむやうの涙あれあれのすまうすまうす

内

楊成元

主ゆゑひるがれおれおれおれの風ひじまく

以上同座

彦葉曉林

家經

風をいふおまなづくおもむくおもむく

連

郊行連也金

匡房

金夏
かきやつをさかね
後於難一
かみの花のうやほのひのくは、

連夜見月

彩家

あらわの花のうやほのひのくは、

同

屏白

うがつあまくあれ、

円

り感

育のまよわかな風とくとくとくわざわざおのづの

円

之候

じうのゆきわからずのアベシトカモリ

礎障

一字物

庄樹假日

歌季

玉葉夏大僧正行事

セ玉

障本支應

佐新

玉葉夏大僧正行事

佐新

障人遠

同

玉葉夏大僧正行事

佐新

隔

震風

源五郎

玉葉夏大僧正行事

佐新

玉葉夏大僧正行事

佐新

於難春

山のちかにやのすれとせの柳葉がとむと

あらわる春 同

うきよよすすすまのほのかにゆめくわくあらわる

あらわる花 良運

なまくとくじゆくとくにゆくよしらよめくわくむ

あらわる 肥後

続於春下
えがくすすつまよしら見ゆのくものへとせ

友花弓絃 金 春全
越後 花園左臣家女房

あらわのくもくわくわくひのくわくわくひのくわく

あらわる弓絃 俊代

一字折

家
印のくみくみをはせじくをもとめくとせくとく

小舟弓船 關白

千夏
えすすむくよちるうつみのくみや舟のくみくも

蘭弓絃 同

せくよくまくよしきとはせんこぢまくがくまく

蘭弓絃花 元浦

岸らすあとのつむのきはくとくかくわくわく

秋暮弓水 俊代

おもいのくわくのくわくにゆくよしらむくよしら

嘉蘭女郎花 同

家
かゝれり一うちれをいはゆるがれむかくわらとまくら

垣防の葉金 仲寔

金秋
えののかよ山の枝の葉葉落すやのゆ

酒と歌遠 周白

もはや、まわらひを歌よきのゆ

酒自處 同

玉恋前大御言為家

二月のれどもやく風氣の至而

守候を原 俊軒胡月

新吉夏
とくまく夕とよしのうのかくせんれゆ

萬葉障月 七之江

一字抄

かつれとむつめや春の二月がすの音をよみ

同 下郎

まほのむらむらとよしのよのよきのよあじよ

秋庭一日 夜金

旅宿

すすす行は風のよしとよしと有感あてむやまくも

龍

鶯籠紅葉金 資仲

もみじのじよせ鶯籠金がよなよと聞の間のあづれ

秋霧籠路 ら運

行まくよみうわむすびあてするわハ酒をすく

藏 隱

款冬藏橋

顔重

かづひくあてのまごとまごとあがめくわくわくわくわくわくわく

牛糞夏花松金

玄運

金春

ねをのせせざりとはすらあがめくわくわくわくわくわくわく

海正龍鷗

經作

家

ふるさとけむり林きみにまつりまつりまつりまつりまつり

落葉花路

清成法橋

後秋下

もじらすれいのじきくわくわくわくわくわくわくわくわく

雪荒歸宿

桂香威助

一字抄

さくへよどひてくく柳うたよしわらわらわらわらわらわら
雪隱十種

左門右太吉

いそもくとすほじゆすすまれれれれれれれれれれれ

霜隱家

山成法師

さくうううれいももれいももれいももれいももれいもも

岸柳花橋

リ京口

さく柳のさく柳のさく柳のさく柳のさく柳のさく柳の

款冬藏橋

玄運

しんをわくや人のよしんはくわくわくわくわくわくわく

俊頴集

掩 埋

花掩洞水

友原道方

らむのをまづはくはくはしてあせめざむ。那

同

村家

山井のまきよひたまくわようれい、残りそへよくまば

むぼく水

花葉なす

やまきよひあつひよひあくまくひうてちよかく。余のこ水

花葉ば橘

多名

これのまくわやかくうとつんじうほくわよみ柳のく

花葉ば橘 金

歌葉

小金のまくわのまくわよ活のよどく。お葉へに

一字折

花葉ば菊

家経

家もみぢみの外うたははれや事のうべくはまくも

家葉花葉

多名

花葉のまくわよはよのむよそくひてくわくわよ加くま

花葉ば橘

三條太助

あまくわよひのむよくわよのむよのむよの舟く。花くわよ

花葉ば橘

詠資

しよくわよひのむよくわよのむよの舟く。花くわよ

満

花葉ば橘

赤津

本
雪理
後教明良
さゆるやの、
もうすすあるす
雪

千春下
おめもとすまうひじきわらづのひさへ

金春

花あはれ

内大臣 家康

六朝
かくのあはれをよむてをみをもゆるがふれ

同

花園だく

七日
しちにほはれをよむてをみをもゆるがふれ

同

後承別

前春
まへなまくのをのをのをよむてをみをもゆれ

花あら

宇家

前春
まへなまくのをのをのをよむてをみをもゆれ

明陞

花あら

家
わふうをよむてをみをもゆるがふれ

菊は庭

六郎たんほ

歌序

まめにわくわくするのせばほのひくをひくをひくを

菊は庭

六郎たんほ

まめにわくわくするのせばほのひくをひくをひくを

同

秋家

初冬の夜をよむてをみをもゆるがふれ

菊は庭

藤は家

まめにわくわくするのせばほのひくをひくをひくを

同

竹家却月

冬の夜をよむてをみをもゆるがふれ

紅葉はる

以上四首 花家

太め川のもすぢをよしとせれと少々のひかえもうへ

彦禁はふ 金

頭まで

おほむはおさみのむすびあやせはみ葉とくらはやま
水新吉

彦葉は情況

家経

新吉冬
おほむはおさみのむすびあやせはみ葉とくらはやま
カモガ船をかづくすむちのあわててる太め川の水

彦葉は絹代

信教胡口

新吉冬
おほむはおさみのむすびあやせはみ葉とくらはやま
家葉は風をうわがまほすみ葉とくらはやま

冰浦波上

絹経

新吉冬
おほむはおさみのむすびあやせはみ葉とくらはやま
小舟のほくはね舟をよむ作むくらはやま

歩はゆき

信教

家
くわくわくのほほほほくわくのむすびあやせはみ葉とくらはやま

滋

野舎冲浪

信教

家
むさくがのあいれどよむじの「まきまく」うらやまアソムズれ

聖母あ波浪

信教

家
くわくわくおほくわくはうみ舟のあくまのふほよかのむじ

跡花高浪

信教

家
くわくわくあくのくわくすまいくよのあくよむじ

薄蘿波浪

西川

一本
きよま御宿
おほくわくむじ
くわくわくむじ
くわくわくむじ

重

三花家

信教

わくすきのいはまへほまはくすきのいはまへ

帶

梅花家

信教

まくすきのいはまへほまはくすきのいはまへ

家

聖瞿麥家

信教

あきのせうめのいはまへほまはあきのせうめのいはまへ

家

仰手家

信教

あきのせうめのいはまへほまはあきのせうめのいはまへ

家

仰手家

信教

肥家

信教

あきのせうめのいはまへほまはあきのせうめのいはまへ

家

松下草家

信教

ほりのひのきのいはまへほまはほりのひのきのいはまへ

家

残菊家

信教

あきのせうめのいはまへほまはあきのせうめのいはまへ

家

初夜家

信教

かくすきのいはまへほまはかくすきのいはまへ

映

花映月

平經章

かくすきのいはまへほまはかくすきのいはまへ

月光映露

かくすきのいはまへほまはかくすきのいはまへ

小山原宿より此の用紙を手にすむがせんの事

月光勝歩 俊新

はるよがひてうきのすみかまひ冰と月の御

菊の臘霜 俊頬

やくさくの下かるまつゆかまほのうきのうけ

写

花菖蒲水

孤季

きのこのかくらゆかまほのうきのうけのうけ

毛氈写水

唐寅正母

あくびとかきりめむのうきのうけのうけのうけ

一字押

円 良 貢仲

水すうのあらうのあはまくじすらまくま

村家写水 経衡

ふくしのすみかまほのうきのうけのうけのうけ

松風写水 圓白

ねぎのやかまほのうきのうけのうけのうけ

山家写水 院また

かくらのうきのうけのうけのうけのうけ

浮

燭影浮水 池家詠之 七月七日

兼澄

家
かのうじゆくわら他の庭きよみだまつめかわらまく

松新涼水 經信マ

家
かのせかがまきの風の風の風の風の風の風の風の風

春柳浮水

国基集
經信マ

三
みのむらの花つせきの小まちののとみえける

薦浮浮水 經信マ

雅蕙

花
花のうらやまとわらん様のうるるに

新吉松
あらき金
岸うちの廉のうらやまとわらん様のうるるに

道房

薦浮浮水

新吉松
金

菊浮浮水 經信マ

範永

かのうじゆくわら他の庭きよみだまつめかわらまく

紅葉浮水 綏信

金

かのうじゆくわら他の庭きよみだまつめかわらまく

紅葉浮水 綏信

大炊助

かのうじゆくわら他の庭きよみだまつめかわらまく

薦葉浮水 俊教

金

かのうじゆくわら他の庭きよみだまつめかわらまく

新吉冬
紅葉浮水

日

金

かのうじゆくわら他の庭きよみだまつめかわらまく

用

林下之子

經術

かの林をよみがへてはるかにや麻の葉をもむらし
海毛草病

為我

白き諸の草がうまくまとひかれてあらわのまへ

落

梅花落水

後秋

ちうてはりもむきよしめのまがねや廻よまし

花の落院風

近所

冬の花をうかる春のはなとよすよせう

葉落月明

國房

一作抄

月のさくれうきるがやのが西の木をもむらしきむどい
落葉枝漏

玄運

木葉よおはの木をもむらし柳を落の西の木をもむられ

未落

山花未落

経信

風雅春下
うきるがやの木をもむらしき柳を落の木をもむら

因

師賀

さうりてうきるがやの木をもむらしき柳を落の木をもむら

鮮

林花落葉

通澄

あはれすかはるかに物の如くとよほどのけぞり

散

落花散衣

藤永實

あはれすかはるかに物の如くとよほどのけぞり

靡

落花靡風

信教

あはれすかはるかに物の如くとよほどのけぞり

隨

柳絲隨風

金
白院清製

あはれすかはるかに物の如くとよほどのけぞり

桜花隨風

り家

春風すあはれいきの行す新緑すすみのさざやう

花葉隨風

深村経

いつの花葉身もとよほどのけぞり

花葉隨風

はく村

いつの花葉身もとよほどのけぞり

草玉隨風

信教

いつの花葉身もとよほどのけぞり

柳葉隨風

信教

いつの花葉身もとよほどのけぞり

家

萬句風 因房内侍

宿心にてキツヒツと風を吹ひのむ

萬葉狂風 俊新

家の風のよきがいとてまかれてきりとてまかれて

子守歌は 仲正

叶ふたごとせあらあももおもはるはる

萬葉狂風 伊通卿

さまでいよひの春風のもとよすまほそめうそ

飛

萬葉雪 おま

万有緑

一三抄

ちく雪子すましりすまのさくねくにうきうき

亂

瀧水乱絲

大中臣浦了

みくわのれ流つまくらく山のれくらく

薰

金春

梅花有薰 金

長房

桔

金春

花薰風

開白

梅

金春

うめの風やすくもよひくも神人匂ひあくわ

花薰風

放季

夕はよがれか風とみゆき神とむらさき
御衣葉月

御衣葉月

いとまくやせの枯風吹きし花ははく人のまく

落衣葉衣

りふく

すうのむのむす句づるまくすすむすむすむすむ

御衣葉衣

ひく

えのくわとむの小舟のむすむすむすむすむす

御衣葉衣

ひく

えのくわとむの小舟のむすむすむすむすむす

御衣葉衣

ひく

えのくわとむの小舟のむすむすむすむすむす

御衣葉衣

ひく

おのむすくはふくおも神と人やあく

残花葉風

ひく

おのむすくはふくおも神と人やあく

芳馥

後林春上

顯緑胡月

おのむすくはふくおも神と人やあく

菊衣久馥

三條大翁

おのむすくはふくおも神と人やあく

風靜衣芳

後林春上

おのむすくはふくおも神と人やあく

金春

句

岸菊久句

坂川右衛門

きうちれきよしきる事のじ幾せの村よあくとひらせ

回

兵忠

あしゆまのせよとよはなとくとくの白い

綠

花菖枝綠

三蓮

梢とせのまつり福不吉のせうらわふとこれ

庭松久綠

ニ月太納

さくらの枝とむすの西とくせのかくわくとく

一字抄

岸松久綠

実川之

池かせとせのせの松とせとせとせとせのせとせも

紅

林葉樹紅

國房

まくわくとせのせの松原あらわすとせのせのせのせ

菖草水紅

能季

小倉のせのせのせのせのせのせのせのせのせのせのせ

白

曉日紅

寛方

雪のせのせのせのせのせのせのせのせのせのせのせ

薄

あさひの家音

園基

春うへやいがきをせはすみのとくらむじをかのせや
家

浅

紅葉行路 後

通後

いまやれとまよのじれみ葉ハ村もまれとまよの
後松秋下

深

浦の花

圓ふ

みゆの浦の匂ふさがれきうかどくちくわしゆうくわく

ほ山 橋

後耕

谷やまくわすかわくまく風くわくくわくくわくくわく

浦の首を

仲寔

れうめじあうめじあめじあめじあめじあめじ消

ゆじふゆ

基後

くわくわくわくわくのけくわくわくわくわくわくわく

花之春你

信耕

かくまそ春うこすなまくまくもじもじやあまくまく

情春夜你

後綱別居

つむぎうごむくわく春のよね草の月よくわく

内

為仲

きぢづる羽やしゆひのまつりの神事

草花露珠 俊軒

（風秋上） ほしの秋のあらわす林木にほしと露や霜よ月のう

山路遙深 師俊

夕暮よ詠ひのむかわくもむかへるをかうの月の山の

松床秋原 色房

よしめいせのむすめ舞ふうじこれうみゆゆゆゆゆ

夜ほけソ麻 俊軒

一字抄

本居宣長 家

村屋宣長 一室

ましめのむすめ舞ふうじこれうみゆゆゆゆゆ

雪月夜ほ 家宣

おもての月のうほの彼のがおのすみゆ月をさくや

山ほ紅葉浦 原財総

いとくわくのうみゆみく風やしゆらむれむか

ほみに葉 金經

（金秋） おとたうじまくのむらうづよ

深山裏 色房

金冬
けのきのまつりやまくらはるまくらまくら

雪与風涼

後秋

家
やまとはまくらまくらまくらまくらまくら

底

松毛洞底

角毛青表

後秋
万代のあい城もすててむすびはまくらのいの川家

家

子持山谷もくろもむきくわのいのじふをうき禮

洞底月

円

千秋上
てうりのたひねのまやまくらとうまくらのまよ川乃内

一字抄

風底林序

日

家
林のほのかのわくらよ、かまくら人のいの城もくら

流

月浮流水

井

後秋

イ

新吉冬
てうりの小よきみづの林もくらのいの城もくら

荷葉隔流

家經

きそくまくらまくらまくらのまくらすくら大河川

不流

水半不流

良

正家

じそくまくらまくらまくらまくらまくらまくら

洲

奈勢立洲

河原流

寺名

あまのとくまきのじまはよ代とくとてをもやお

内

惠慶

かまくらにむかひたまくもすむとよゆくへ

岸

池岸柳

金

雅兼

風きよのあやめ池水よいのすのま柳

岸菊久句

為政

みくわのひめをあそびにむかひたまくも

林

林と子学

安名

呉牛のあくやまと学のふとくわがく

月滿林間

友盛房

わやくは小がのうのうれどうくのわくわく

一葉す林

範承

わくわくの梢とおほれと一葉もくわく

俊綱

こうのくわくのくわくのくわくのくわくのくわく

経衡

一ノ家
一ノ家ノよちよとよきく小紅葉す。林のこゝと小風やすらん

あらわがやまゆもむかはんとあまゆのゆゑに枝すらる

立運

柏原をいへる秋やまに一葉も見ゆまじくちりう

以上五首後編合

叢

叢中移法

能宣

えつてすまひの竹のそよぎませの村よもぢかくせを

生竹叢

河原作

七名

一字抄

村の渡のまつ葉あがすもほうちりむのゆよ、城むきく

村

まつ村アラ苗

孤季

家

さくはし田のまつ葉アリ豆アリ豆アリ豆アリ豆アリ

をお煙

夜れ成

まつ村アラアラアラアラアラアラアラアラアラアラアラ

まつ村花 裏

定家

まつすじ野原のまつ木枝金あらわくせらるる木の本

路 径

り路彦正

通俊

続於遺春下全
おおむりゆふくまくわせはあむにしもとむらうひまつ

川越宿

宿家

宿のたまごのまくわせはじまくわせの竹のゆふ

行路宿

圓白

がくいはまくわせはまくわせはけのうるよもまくわせ

川越宿

宿をただほ

たづねいはまくわせはまくわせはまくわせはまくわせ

繞古難上

三條大納

まくわせはまくわせはまくわせはまくわせはまくわせ

川越宿後

橋成元

一字井

後松春下

範永

山政院月

範永

左明の月もほのよやかとよとおもかみのまくわせ

川越宿

室本

まくわせはまくわせはまくわせはまくわせはまくわせ

川越月 裏 宿家

しもと月のまくわせはまくわせはまくわせはまくわせ

川越宿

大政大臣

まくわせはまくわせはまくわせはまくわせはまくわせ

川越宿

旅季

胡々の風のせいかひかへてかわらへかもほへり

あひる

と名

まかのねあくべにまかのねをかみかねを

幕遊

信教

まかのねあくべにまかのねをかみかねを

周游する 金

兼昌入道

まかのねあくべにまかのねをかみかねを

漫遊月

旅肺

まかのねあくべにまかのねをかみかねを

り漫遊月

実り

本
行路秋花 頭李マツ
新唐安秋花 花の小さき
あきくわら かづくさき
ゑいさくわら えいさくさき
へつねり けいり

千秋

十

九

よがくのれぬのとふ風にそてゆぢわらはせや
那住跋鷗 行宗

かどりせんのはよむまかせや、せかくやや富へうゑい

仰遊月 実向

すじりのいのいのうすがくまかせや、くの月のね

形經秋风 西川

まかのね風を形かくまかせや、まかのね一海の下露

處:

まか尋花

白川庵詩叢

春のねの有いよせや、まかのねのなづり行

詞春

二

三

六條右大臣

午里川合山あらわすをなすをさへあらわすとまづる

臣房

様よのまのまくも一いとたわけの約よの富とよ

已上同度

支しる花はな

ミ實

三種みの枝えをもつら拂はうともあくももの有ゆり

月

通後

さくふひむとつりまくわにのやまくとく

卯う花はな

歌季

いよよしひくまくわをも聞きのまくは

一字抄

宇う意いまく

邦道

上総前可

庭

後於秋上

京極前を政大臣

かやまよ秋あきのきよとおとよとよよしよよよよよよ

望のぞむ梅うめ

花はな

心こころとて落おちやむとせ下おせ匂においまたう秋あきのを

在在前まは 裏

宇家

やも木やもぎと生なてそぞゑある、我神わがみのまほよのむち葉

続松秋下

在在上じょう落おちふ

口

家
ちのうとまへはねむるむすめのよし

格子のあらわす

を上冬菊 裏熊野新宮 御會

口

家
あがむ角れ房のまつり

を上花

口

家
月季のあまく形よし

庭梅絶景

小川沈山

新古夏
庭の梅の月季のあまく形よしの日暮

ほ匠房

口

庭房

金夏院御製
おーうの梅茶もろふちやかとわのまつりもわまとさうじ

砌

一字抄

梅花薦砌

欣浦

あきくわくいは梅のまつりも宿のかげくわく

意擣薦砌

顯浦

きみくわくのすまとまつりも宿のかげくわく

隣

郊花備隣

俊朴

うめくわくのまつりも宿のかげくわく

隣家意擣

源師え

我やふくわくのまつりも宿のかげくわく

風信隣

寛成

様ぢうとれつよせ春風ハふるまくやまとまくひづけ。

山家小鶴 行家

やまとまくひづけよやまとまくひづけ花よまく風のうり

山家

山家玄衣 成助

うみまかはす御とくや山うのあきの衣とすまくらん

後松夏

山家和玉 通後

宗代

あまくえくのへむなき山たと小城のとよとほくせきふ

山家秋衣 後

大津信浦

やまとまくひづけの門のよきよたまくす行とくく小鶴

一字切

金秋下

山家秋風 内 宜古文越前

金秋上

やまとまくひづけのねむきよまくあまくいふれゆきの風

山家秋衣 晚後松 内 村家

金冬

うめりとくのよきよひのねむきよの麻もだくとくのす

山家冬衣 内 永胤

金冬

林育よきよひと枝うきよれわまよまくのすと

山家冬衣 俊れ

家

ゆきよひやよきよひと枝うきよれわまくのすと

山家小鶴 俊経

後松冬

よしよひやよきよひと枝うきよれわまくのすと

山家雪

友國房

新古今野草雪
はいりやせうよきよとて是くあらたのとちりまのすみん

山家待春

え運

はせじやを代えよて雪のくわざれすへるはるの里

山家有本

成雨

はるすくらむりはるくせに葉よもよこめなづかせ

山家就宿

經宿

まのゆすやはまよふともうれさまよひうつる今

山家就堂

經托

まのやまとまよひもじやくをもつてよむ堂され

一三三

山家宿方

後松裏

經修母

後松秋上

めくらの門唐のまくらすまくらをも人のゆのまくら

山家宿子

枯木

西り

かくらのまくらすまくらをもれまくらまくらのまくら

山家春家

俊宗

はるくははるくのうじほのかまくら門用よ被ふせてせ

山家掌

俊朝

てまくらをもるくのうじほのかまくらはるくはるく

山家瞿麥

匡房

いわせじよとわむしめやのうじほのかまくらなまくらのま

山家紅葉 音ホ

後秋

やまのまろびのこいの木が紅葉み入るのとてはまくら

野亭

松宿

歎覺

後秋上

こよひの木の席のゆきすゆきれやうすの秋の風すれど

千秋下
翠亭ゆ席

後秋

せせめあむはせよせせむれとほくちの木のゆきすれど

雨は雪

口

金夏

せせめあむはせよせせむれとほくちの木のゆきすれど

方舟艸

西行

一字抄

かまくさむをせせむれとほくちの木のゆきすれど

判者後成卿イニシヤ

建仁元年八月十五夜日午子丁合

望月彦涼裏書左緒友原秀能

新鶴吉款
新原やまの木の風かづくふきりとたゞくはあらの月

新原やまの木の風かづくふきりとたゞくはあらの月

田家

田家秋興

新吉秋下

社會あるまの風のよしめじて田のひがゆすせてとまく

千秋下
田家秋風

秋雲

家後成金

やまの木の風のよしめじて田のひがゆすせてとまく

田家秋興

右政方居 実行

かうきのかくお猪のくつまくわやほけあがむいのうめう

國家も翁 金

墓長

金華上

かうきのかくお猪のくつまくわやほけあがむいのうめう

國家月

正月家

かうきのかくお猪のくつまくわやほけあがむいのうめう

國家

日

宋 民のやせあらひがまかねの月かみやとみの秋かみ

